

—スケート部—



- 体育会名:関西学院大学体育会スケート部
- 創部年:1934年(昭和9年)
- 2025年度会員数:48人(4年9人、3年12人、2年16人、1年11人)

- 同窓倶楽部名:関西学院大学体育会スケート部同窓倶楽部
* 関西学院同窓会 公認団体

- 同窓倶楽部通称:
 - 設立年:
 - 会員数:

関学とスケートのかかわりは古く、神戸の原田の森時代に、「冬になると六甲山の池で学生達がスケートを楽しんだ」という記録がある。1912(明治45)年1月29日付の村上博輔教授の日記には、「生徒と摩耶山経由して六甲山に登り、山頂の池で滑った」との記載がある。

また18年2月6日付けの「朝日新聞」神戸版は、「関西学院高等部学生が中心となって組織しているスケートクラブでは、昨今六甲山頂三国池の結氷が丁度具合よくなっているののでいよいよこの土曜日から日曜紀元節へかけて3日間、泊まり掛けでスケートの練習を行う事となり15～16名の学生が参加することとなっている」と報じている。

スケート部の発祥としては23年12月23日午前10時から、六甲山頂で山岳部スケート倶楽部として、発会式が行われている。指導者は、馬淵、ブラッドレーの両教授。選手としては、横山、小曾根の2人であったと「毎日新聞」兵庫版に記載がある。

一時中断の後、31年に「スケート倶楽部」として復活。32年関西スケート連盟に加入。34年に部に昇格した。同時に、それまでのフィギュアだけであったクラブにアイスホッケー部門も誕生し、当時は剣道の防具を着用して試合に臨んでいたとのこと。当時在学していたのが日本のトップスケーター、片山敏一(としいち)だった。

25年、日本で最初の人工スケートリンクとして、大阪市に「市岡パラダイス」が完成。27年に市岡スケート倶楽部が創設され、当時中学生だった片山は28年からスケートを始めた。31年に全日本ジュニア優勝。32年に全日本2位となり関学に入学した。同年、大阪市の中之島にできた「アサヒアリーナ」を練習拠点とし、33年の全日本選手権で優勝。その後、国内のほとんどの出場試合で優勝するという快挙を成し遂げた。

34年1月、全日本インカレ(日光)で個人優勝。男子団体(片山、倉橋、大石)で2位。同月の全日本選手権で連覇。35年1月、全日本インカレ(芝浦)個人3位、団体3位。同月の全日本選手権で3連覇を達成した。同年11月に行われた、第4回冬季五輪である1936年ガルミッシュ・パルテンキルヒェン五輪(ドイツ)代表決定戦の結果、代表に選ばれた。

35年12月11日に東京を出発すると、翌36年1月のヨーロッパ選手権(ベルリン)で7位に入った。2月9日～14日に行われたガルミッシュパルテンキルヘン五輪では15位。更にパリでの世界選手権(2月28日～29日)では13位となり、日本帰国は何と4月17日という、長い長い遠征だった。

37年、38年にも、全日本選手権優勝。五輪で不在だった36年を除き、6年間で5度全日本優勝の偉業を残し、卒業後にはプロに転向して日本最初のアイスショーに出演。後に指導者としても活躍した。まさに関学スケート部の黄金期とも言える素晴らしい業績を残した。

43年を最後に、戦争のためスケート活動は全国的に停止されていたが、終戦後の45年には、石脇恒郎を中心にスケート部が復活した。46年にはスピード部門が設立され、アイスホッケー部門と合わせて3部門が揃った。47年には第1回の諏訪湖合宿を行い48年、第20回全日本インカレに参加。フィギュア団体2位、スピード団体5位で総合3位となり、「驚異的な結果」と評された。

スピードスケート部門では、岩島直巳が選手時代に日本新記録を樹立。日本スケート連盟ショートトラック部の強化部長ののち、2014年ソチ五輪ではスピードスケート・ショートトラック代表監督を務めた。13年8月に開場した西宮市鳴尾浜の「ひょうご西宮アイスアリーナ」設立に際し、兵庫県スケート連盟理事長として、県内初のオールシーズンスケートリンク実現に尽力されたことは、長く称えられる業績である。このほか、ショートでの矢部雅一、ロングでの加藤幹夫らも立派な成績を残した。

フィギュアスケート部門では、平松純子、大西一美らが五輪選手として活躍した。

平松(旧姓上野)純子は1956年、第24回全日本選手権(京都アリーナ)で、初出場で初優勝。以後4連勝を含む5度の優勝を飾り、ユニバシアドでも優勝した。

冬季五輪は60年スコーパーレー(米国)、64年インスブルック(オーストリア)の2度出場。スコーパーレー大会では、日本の女子選手で初の旗手を務めた。世界選手権には56年、60年、63年の3度出場、引退後は審判員、国際スケート連盟(ISU)理事として活躍した。ひょうご西宮アイスアリーナ設立に際しては、上記の岩島とともに、関係者との折衝にあたって功績をあげた。

大西(旧姓山下)一美は在学中の68年にグルノーブル冬季五輪(フランス)に出場、72年札幌五輪ではシングルスで10位に入った。世界選手権には68年、69年、70年に出場。全日本選手権では68年の第37回から4年連続優勝を果たしている。

90年代を迎えると大学を取り巻く環境も変化していった。生き残りをかけて、学生数を確保しないと経営が厳しくなる中、知名度を上げるためにスポーツ推薦の枠も次第に広がっていった。スケート部も梅谷(フィギュア・ユニバシード出場)、淀(フィギュア)らの活躍が認められて、受験枠が増え始めた。

スピード部門では、石田がW杯出場。横山はユニバシードに出場するなど、推薦以外での入部選手の活躍が目覚ましい。

以前は兵庫県に通年営業のリンクがなく、練習場所の確保に苦労していたが、ひょうご西宮リンクが出来たおかげで十分な練習が可能となっている。恵まれた環境が将来に渡って非常に大きな力となり、歴史ある我がスケート部が、さらに飛躍するに違いない。

6. 全日本インカレに於ける成績

(ア) フィギュア部門

1934年(日光) 男子個人優勝 片山 団体2位(片山・倉橋・大石)

35年(芝浦) 男子個人3位 片山 団体3位(片山・倉橋)

48年(松原湖) 男子団体2位(神原・清水)

49年(盛岡) 男子個人2位 大矢 団体優勝(大矢・神原・清水)

50年(蓼の海) 男子個人2位大矢男子団体2位(大矢・神原・尾野)

52年(後樂園) 男子団体3位(尾野・石崎・歌川)

53年(伊香保) 男子団体4位(歌川・石崎・飯田)

55年(日光) 男子団体2位(飯田・村上)

57年(蓼ノ海) 男子個人優勝 村上 団体3位

60年(帯広) 女子個人優勝 吉原

62年(軽井沢) 女子個人優勝 上野 団体優勝(上野・吉原・堺井)

63年(蓼科湖) 女子個人優勝 上野 団体優勝(上野・吉原・堺井)

70年(蓼科湖) 女子個人優勝 山下 団体優勝(山下・巽・岡本)

71年(美鈴湖)

(これ以降、天然の湖から、人工のリンクでの開催となった。)

72年(スバルランド) 男子団体4位(白石・平居・新川)

女子団体3位(中西・岡本・君原)

73年(日光) 男子団体3位(平居・岩川・浅川)

女子団体3位(岡本・君原・川端)

スピード部門

48年(松原湖)米田昭氏が、初参加で初得点(500mで入賞して1点獲得)した結果、新聞でも驚異的と評され、総合得点も3位と大健闘した。